

2016年度（第13期）事業報告書

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

特定非営利活動法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会

報告者 プロジェクト統括責任者 三浦 照男

はじめに

今年度においても、北インド・ウッタラプラデシュ州アラハバード県にあるサムヒギンボトム農工科学大学マキノスクールを中心に、農村におけるリーダー育成、貧困家庭の子どもの教育、農村の栄養・母子保健改善、そして、農村住民の自立のための有機農業組合活動と所得向上等、多岐に渡る支援活動を行った。各プロジェクトは計画に沿って実施することができた。これは国内外からの継続的な協力、支援が得られたこと、助成金、支援金、寄付金が計画に沿って確保できたこと、また、国内、海外の事務所スタッフ及び派遣スタッフとインターンスタッフが尽力してくださったことに他ならない。また、本会の全理事においては、今まで以上に、スタディーツアーの広報・募集・企画・実施、クラウドファンディング(Readyfor)による募金企画・実施、また女性裁縫事業(AVS)の国内販売、次期形成プロジェクトに参画するなど、具体的に協力をしてくださった。上述した動き、変化は、今後の理事の果たすべき役割、募金の方法、今後の活動分野を再検討するにあたり様々な示唆を与えてくれている。全ての方々に心より感謝申し上げる。

I. 特定非営利活動に係る事業

1. 農村開発・農業開発支援事業

持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

(1) 貧困農民のための収入向上活動事業

アラハバード有機農業組合を中心に、日本米、味噌醤油等の日本調味料の製造及び組合スタッフと栽培農家研修支援を行った。実際、生産高および製造量と共に、販売量の伸びは順調であった。一方で、組合長兼マネージャーの横領が発覚し、組合運営が混沌としたが、その組合長及びそれに関わった組合職員が辞任し、現在は平常業務に支障をきたしていない。派遣されているスタッフはこのようなことがまた起こらないようにするために、執行部の組織改革、外部からの会計士の導入による明瞭な会計構築ができるように支援を行った。

(2) 若い人材の育成と総合的な農村開発の推進

インドの組合農村リーダーを育成するために、4月に2週間のタイ国研修を企画した。タイでは特に、有機栽培、有機農産物直接販売、キノコ栽培の研修を中心にタイ北部、チェンライ県及びチェンマイ県を研修地とした。アラハバードから7名、またメガラヤ州にあるNGO・ベサニー協会より会長お

よび研修ダイレクターが参加した。研修のプログラム調整、ホテル予約等、アジア学院卒業生のプラキット氏、チュンチュアム氏、クワン氏、それにウエツチェン氏が協力してくれた。彼ら、彼女らの協力があり、実りのある研修を実施することができた。感謝である。また、この海外研修のために助成金を提供してくださったアジア生協協力基金に感謝の意を表したい。5月に、研修に参加できなかった組合農家、組合スタッフ、マキノスクールの学生のために、報告会を実施した。

インドでのキノコ栽培研修の機会を提供した。8月28日～30日まで、デリー郊外にあるインド農業研究所(ICARD)が主宰するキノコ栽培(オイスターマッシュルーム、ボタンマッシュルーム)研修プログラムに、継続教育学部から担当スタッフ2名、AOAC普及員1名、AOAC栽培農家3名が参加した。このようなキノコ栽培研修が実り、現在、9名の農家がキノコ栽培に取り組んでいる。同様に、2月にもう一度同様なセミナーの実施を支援した。これらのキノコ栽培研修はアジア生協協力基金の助成金によって成された。感謝である。

(3) アーシャ農村学校及び持続可能な農村開発研修センターの効果的な活用

現在上記の事業をより強固にするために、2011年度に設立された「持続可能な農村開発研修センター(継続教育学部の3階)」は年間を通して活用されている。通常は職員、学生、訪問者等の食堂として使用、大きな会議の場合、特にセミナー、VHV月例会、交流会に使われた。更に、同センターと併設されている宿泊施設の一室がモリंगा葉の乾燥加工に使われている。現在の施設で、衛生面を保ちながら、乾燥作業ができる部屋が無いためである。

その他、カンジャサ村とハルディー村にある改善センターは村の女性たちのための基礎裁縫教室と上級裁縫教室に使われた。また、マエダ村にある研修センターは、アーシャ学校の月例職員会議、保健ボランティア(VHV)の会議、栽培組合農家等に使われている。全般的に本会が関わった農村施設での活用状況はおおむね良好である。

2. 人材育成支援事業

2-1. 持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上

今年度は、インド人3名(内女性2名)、日本人男女2名、合計5名が入学したが、残念ながらインド人学生2名が個人的理由により中退した。2017年3月24日に3名がマニプール州の卒業生インターンであるニャンボ、1名と共に卒業した。5人中2人もの学生が中退したことに關して、このような事態が何故起こったのか十分な調査ができていない。少なくとも、早朝からの農場実習を中心とした研修内容、英語使用という言葉の壁、入学の動機、卒業後の希望、送り出し団体との関係等との因果関係を検証し、今後どのような指導、協力支援をしていくか検討する必要がある。

2-2. 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

(1) アーシャ学校(3村、3校・児童600名)の運営と教育改善のための支援

児童に対する保健教育を中心に、環境教育、農業教育、美術教育などを特別学習プログラムとして支援した。10月下旬に特別学習プログラムを男女2グループ、それぞれ10月20～22日に女子、10月26～28日に男子を5学年と6学年、各30名に分け、継続教育学部のセンターで2泊3日の宿泊学習の実施を支援した。この他に、絵画教室、総合学力試験、アーシャ学校運動会、アーシャ学校祭の実施をするための、支援と助言活動を行った。

(2) アーシャ学校教師の研修支援

9月9～10日、アーシャ学校教師が教師としての資質向上のための研修プログラムを実施した。

(3) アーシャ学校の基盤整備支援

風雨等で壊れた校舎の屋根、床等の修理改善の支援を行った。特に、Readyforによる献金を用いて、アーシャ学校ギンジ校の穴が開いているところの補修、土間であったところをコンクリートにした。

(4) アーシャ学校の生徒に対する奨学金寄与

アーシャ学校の授業料は他の私立学校に比べ低く設定されているので、教師の給与は最低賃金よりも低い。その為、2016年度も生徒1人当たり25ルピー(50円)を奨学金として供与した。この奨学金の7割は教師の給与に充てられている。

(5) アーシャ学校建設の募金

2017年度において、アーシャ学校マイダ校新築のために100万円の募金を行う計画であったが、新築後の教師数の確保や生徒数の確保が明瞭でなかったため、今年度は延期することにした。

2-3. 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

農村女性の収入向上のための支援事業として、4月1日より7月15日まで、手工芸品研修事業をマキノスクール研修センターで実施した。9名が参加した。7月下旬から3月下旬まで、優秀な研修生4名をスーパーバイザー及び裁縫リーダーとして任命し、残る5名と共に小物入れ、トートバック、エプロン、聖書入れ等を販売目的のために製作できるよう支援した。

2-4. 農村保健衛生改善支援事業

2016年度も政府機関保健スタッフと農村保健ボランティア(VHV)の協働によってモデル的な住民参加型母子保健・栄養普及活動が構築されることを目的とした活動は、おおむね計画に沿って実施することができた。ジャスラ郡、シャンカルガル郡、人口約60万人の農村部を対象に、VHV50名が12チームを作り、同時に12か村で活動するのを支援した。この事業推進のために三浦孝子を年2回(8月と翌年1月下旬合計約110日間)短期専門家として、また林神志郎を農村調査、会計補佐として派遣した。当事業は2017年12月で終了となる。

3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

3-1. ワークキャンプ・スタディーツアー開催、訪問者受入

スタディーツアー開催(アーシャ・公益社団法人全国愛農会・インド三浦後援会・継続教育学部 共催)

2016年8月に計画されたインドスタディーツアーは参加者が少なく、キャンセルした。

2017年3月4日から11日間実施された同ツアーは、学生を中心に14名が参加し、マキノスクールを起点にインド農村訪問、インド人スタッフ・当スクールの学生・スタッフとの協働作業、交流等大変有意義なプログラムを実施することができた。このプログラム調整及び募集に関し、中西理事が尽力してくれた。

3-2. 会報の発行

アーシャの活動、サムヒギンボトム農工科学大学継続教育学部のプロジェクトの報告を会員、支援者に理解していただくために年4回アーシャの機関紙『アーシャ』を発行した。

3-3. ホームページ等での広報

佐藤理事はアラハバードでの活動の最新情報を載せるために、ホームページを更新した。一方でFacebookでインドでの活動内容の写真が時折アップロードされるものの、誰が責任者なのか明確ではなく、より広く当会の活動を知ってもらい、当会の認知度向上、会員増強を得るまでに至っていない。今後綿密な計画が必要とされる。

3-4. 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

セミナー、講演、報告会、絵画展 開催。

2016年度に行った時期と場所については以下の通りである。

- 4月16日 那須塩原市にて若い母親やインドに興味を持っている方を対象とした方へのインドプロジェクト帰国報告会 講師：三浦孝子
- 6月10日 JICA 国際研修センター(市谷ビル)にて活動報告セミナー「北インド・アラハバード県における農村母子保健事業が地域住民に及ぼす効果」 講師：三浦孝子
- 6月13日 とわの森学園高校にてインドプロジェクト報告会 報告者：三浦照男
- 6月14日 酪農学園大学にてインドプロジェクト報告会 報告者：三浦照男
- 6月29日 愛農学園高校にてインドでの活動報告 報告者：三浦照男
- 7月3日 田園調布教会にてインドプロジェクト報告会 報告者：三浦照男
- 7月5日 東京西南地区日本キリスト教団婦人連合会の研修会にてインドプロジェクトについて講演 講師：三浦照男
- 7月及び2017年1月 スタディーツアー参加者に対する事前学習会 講師：中西泉
- 12月7日 宇都宮大学国際学部と地域デザイン学部においてアーシャの人材育成事業について講義 講師：三浦孝子
- 2017年1月10日 栃木県JPP関係者交流会(於宇都宮)にて代表、副代表がインドのプロジェクトに関し講演を行った。

- 3月 スタディーツアー参加者に対する事後学習会 講師：中西泉
- 絵画展

2017年3月15日～19日の5日間、山形県鶴岡アートフォーラムにて、『第5回荘内教会保育園幼児画展』が開催された。荘内教会保育園のご協力によりインドコーナーを設け、アーシャ学校の児童の絵画も展示された。絵画展には、期間中約350人の方々が訪れた。会場にはインド支援のための募金箱を設置し、アーシャに寄付してくださった。

3-5. 次期事業形成調査

三浦副代表が次期JPP事業のために、関係者及びJICA筑波の担当者と接触し、2016年12月に申請書を提出したが、JICAインド事務所の理解を得ることができず、不採用となった。JICAインドの担当者と話し合いを進め、2017年7月に「北インド農村女性のための収入向上と栄養改善事業～特にモリンガと家庭菜園普及を中心に～」で再提出する計画である。

4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

4月14日とその後に起きた熊本地震で多くの方々が被災されている。アーシャ理事高丸氏はじめ、アーシャの研修生受け入れ先となってくださっていた熊本いのちと土を考える会(消費者組合)の方々への募金活動を行い、高丸氏を通して届けた。

8月から9月にかけて、アラハバード県の農村を襲った大洪水は80万人もの人々に甚大な被害を与えた。本会として、日本をはじめ、インドにいる日本人(特に日本人ボランティア会)、そしてマキノスクールのスタッフに呼びかけ、義援金、古着等を募った。その結果、現金約45万円、トラック一台分の古着等が集まったので、救援物質が届かないような僻地等に緊急配布した。また、お金は現金で渡さず、屋根にかけるビニールシートや食料にし、被害が甚大な地域に配布した。この作業に不可欠であった被害状況調査、及び配布作業はVHVとその関係スタッフが先陣を切って行った。VHV育成事業の成果であるといえる。

II. その他の事業

1. バザー・チャリティ・販売事業

栃木県内を中心に、三重県伊賀市、東京都(田園調布教会)、千葉県(八千代台教会)、北海道(野幌教会)等において、地域のバザー等に出店し、当会の活動の認知度向上、AVS・AOAC商品の広報・販売を行った。今年度は主にAVS新商品開発に力を入れ、県内外へも広報活動を進めた。2013年度より開始した収入向上支援、調査、新製品開発収入向上事業推進のためのマーケット開発、販売、広報活動を継続した。特に、石原理事、高丸理事の尽力で多量の注文を得ることができた。

国内事務局の會田が日本国内販売を担当し、三浦代表理事、大浦理事、中西理事がバザー出店販売等に参加した。

現地派遣インターンスタッフ平野はアラハバード有機農業組合の製品の販売を促進するために製品開

発支援、マーケット開発を行った。

国内スタッフは、収入向上支援のためアラハバードで生産された岩塩、モリंगा(ワサビの木)葉のパウダー及び農村女性が作った手工芸品の販売支援を行った。インターネットによる通信販売を開始できるよう準備を進めたが、人手不足のため実際の販売につなげるところまでは至らなかった。

2. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

2017年3月15日～19日の5日間、山形県鶴岡市アートフォーラムにて、アーシャ学校の児童の絵画が展示された。荘内教会保育園の絵画展と同時に展示され、同保育園の計らいでインド支援のための募金箱を設置され、全額アーシャに寄付された。

Ⅲ. その他

2016年度の人事は以下のように行った。

(1) アーシャスタッフ及び役割

- ①三浦 照男：プロジェクト総責任者。
- ②川口 景子：2013年7月より、3年9ヵ月の契約でインドに派遣中。現地常駐スタッフとしてプロジェクト形成、インドプロジェクト総務及び会計主任。奨学金担当理事。
- ③林 神志郎：2016年7月より2年間の契約でインドに派遣中。現地調査、研修事業、プロジェクト形成、学部長補佐等。
- ④平野 伸吾：2016年7月よりインターンとして2年間の契約で現地派遣中。主に、マーケティング開発(AVS製品を含む)、食品加工、及び会計補佐。
- ⑤三浦 孝子(母子保健専門家)：インドに短期派遣し、技術指導、助言活動。(8～9月までと1月下旬から3月下旬まで) アーシャ総責任者。
- ⑥丹羽 寿美(国内事務局)：総務事務、会計。(10月に退職)
- ⑦會田 るり子(国内事務局)：会員管理、収入向上事業、マーケティング、収益事業。
- ⑧マッカリー里美(国内事務局)：国内事務補助。(7月まで)
- ⑨漆原 雅子(国内事務局)：総務事務、会計。(7月に採用)

派遣されたスタッフ、専門家は、それらの活動の成果を、日本において市民向けのセミナーや講演会などを通じて、開発教育、市民教育、国際協力等の活動に活用する。本会の運営を強化するために、会員の募集、支援金の確保に努める。

(2) アーシャ理事及び役割

- ①山下 逸喜：広報、CSR、国内外マーケティング。
- ②中西 泉：インドスタディーツアー企画、アーシャ手工芸品販売近畿担当。
- ③大浦 智子：イベント、アーシャ手工芸品販売栃木担当。
- ④佐藤 耕士：広報、HP更新、イベント、アーシャ手工芸品販売福島担当。
- ⑤高丸 和彦：研修受け入れ、イベント、アーシャ手工芸品販売九州担当。
- ⑥石原 潔：研修受け入れ、イベント、アーシャ手工芸品販売中部担当。
- ⑦町上 貴也：広報、イベント、アーシャ手工芸品販売名古屋担当。
- ⑧川口 景子：海外事務局、農村女性とアーシャ学校のための奨学金及び募金担当。
- ⑨三浦 照男：新プロジェクト形成、インドプロジェクト監督。
- ⑩三浦 孝子：国内事務局、アーシャ組織運営。

IV. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1. 農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・アラハバード地区	3名	インド・アラハバード地区30万人の農村住民	954
2. 人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・アラハバード地区	3名	研修生8名および研修生の活動地(インド メガラヤ州、マニプール州、日本)の農村住民各1,000名	11
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・アラハバード地区	2名	インド・アラハバード地区 550名	413
	③裁縫学校の新規開設・運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・アラハバード地区	2名	インド・アラハバード地区 1,000名	192
	④健康栄養・農村母子保健の事業支援	通年	インド・アラハバード地区	4名	インド・アラハバード地区 60万人の農村住民	17,681
3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業	①ワークキャンプの開催・研修ツアー(2回)・訪問者受入	随時	日本	7名	日本国内 300名	658
	②会報の発行	年4回	日本・インド・米国	7名	日本国内、インド・米国 述べ約1000名	92
	③次期事業形成調査	随時	日本・インド	2名	日本、インド	0
4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	随時	日本・インド	7名	日本国内	555
						20,556

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
1.バザー・チャリティ・販売事業	バザー出店、収入向上支援、調査、販売、新製品開発	随時	日本・インド	7名	898
2.演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	絵画展実施	随時	日本	3名	44